

トルコ

第三次農業信用事業

評価報告: 2002年6月
現地調査: 2001年7月

1. 事業の概要と円借款による協力



サイト地図



プロジェクト・サイト

1.1 背景

トルコ経済における農業セクターの重要性は相対的に低下しているものの、1987年においてGDPの18%、輸出額の18%、雇用の56%を占めていた。トルコ農業銀行(TCZB)は、トルコで最古かつ最大の銀行であり、農業信用の90%以上を占めている。TCZBの資金源は主として、公営企業の預金、中央政府からの借り入れ、及び政府の補助金となっている。しかしながら、これらの資金源は農業セクターの資金ニーズをすべてカバーするにはいたっておらず、トルコ政府は農業信用の喫緊のニーズに応えるため海外の資金源を求めており、これにより世界銀行の資金により過去2回の農業信用事業が実施された。今回のプロジェクトは、世界銀行とJBICにより共同融資された第三次農業信用事業であり、世界銀行は農業投資(中・長期ローン) 農業生産(短期ローン) 及び組織強化のために179.3百万USドルを融資し、一方JBICは農業投資のための35,200百万円を融資した。

1.2 目的

農業信用の拡大を通じて農業生産と農民の所得を向上させること、及び農業信用供与機関(TCZB、TKK トルコ農業金融協同組合)の組織能力を向上させること。

1.3 事業範囲

世銀との協調融資として、JBICは、中・長期の農業投資を目的としたツーステップローンをTCZBに供与する。サブローンの条件は以下のとおりである。

(1)対象: 選定された48県で事業を行っている農民及び農業協同組合(融資のニーズの低い貧しい県及び裕福な県は対象外)

(2)金利: ポジティブレート(インフレ率より高いレート)

(3)サブローンの限度: サブプロジェクトの費用の60%から90%

(4)サブローンの目的: 農業機械、インフラ、家畜及び花卉生産

1.4 借入人/実施機関

トルコ共和国政府 / トルコ農業銀行 (TCZB)

1.5 借款契約概要

円借款承諾額(見積)	35,200 百万円
実行額	35,200 百万円
交換公文締結	1989 年 12 月
借款契約調印	1989 年 12 月
借款契約条件	
金利	2.90%
返済期間 (据置期間)	25 年 (7 年)
調達	一般アンタイド
貸付完了	1997 年 1 月

2. 評価結果

2.1 計画の妥当性

トルコの開発戦略において、増加する人口に対してバランスのとれた十分な食糧を供給するのみならず、トルコが比較優位を有している生産物の生産及び輸出を増加させることが重要視されている。トルコの農業は現在、粗放的な農業から、近代的技術を用いて国内及び海外の市場に供給する農業へと変容しつつある。中でも、生産者が経済条件に最も適した農業の方法を選択して、生産量を拡大し、収入を増加させ、最終的に生活水準を向上させる、ということがもっとも重要であるとされている。トルコの第6次(1990-1994)および第7次(1995-2000)五カ年計画においても、トルコでは農地が限られているため生産性を向上させることによって農業生産を増加させることが重要である旨が指摘されており、また、トルコで不足がちな動物タンパクを供給し、同時に生産者の収入を向上させるためには、畜産を促進するべきであると記されている。

主としてトルコの銀行セクターが遅れているために、ほとんどの農民は農業に投資するための公的資金にアクセスすることができない。トルコ農業銀行(TCZB)は、トルコにおいて最古かつ最大の銀行であり、農業金融の90%以上を供給し、農業セクターの開発において重要な役割を果たしてきている。TCZBの資金源は主として公営企業の預金、中央銀行からの借入金、そして政府の補助金であるが、これらの資金は農業セクターの資金ニーズをすべて満たすには不十分である。従って、世界銀行とJBICの協調融資により、農業信用の需要と供給のギャップを埋めることが重要であった。こうした点により、本プロジェクトは現在に至るまで、トルコの農業セクターの現況及びトルコ政府の開発政策とも整合しており、妥当であると判断される。

2.2 実施の効率性

2.2.1 プロジェクトの範囲

プロジェクトの範囲については、2.2.3において記述する金利についての決定を除いて、当初のものと変更はない。JBICのツーステップローンは中・長期の農業信用に用いられ、主として農業機械、家畜及び花卉栽培に用いられた。プロジェクトの対象県の数については、トルコの行政上の組織変更により県の数が増加したのに伴って、48から50に増加した。

2.2.2 サブローンの貸付

当初は、本プロジェクトのための貸付は、プロジェクトの開始4年後の1994年12月に完了する予定であった。しかしながら、円の上昇によりトルコの通貨での資金が拡大したなどの理由により、当初予定より2年遅れて1997年1月に貸付が完了した。

表1 ローンの貸付(百万円)

	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	Total
予定	16,600	12,000	6,600	-	-	-	-	-	35,200
実施	17,254	5,638	4,049	3,294	1,877	2,640	437	11	35,200

出所: JBIC

TCZB による直接貸付と、TKK（農業金融協同組合）を通じた間接貸付があった。表 2 は、1994 年 12 月 31 日時点のサブローンの貸付状況である。

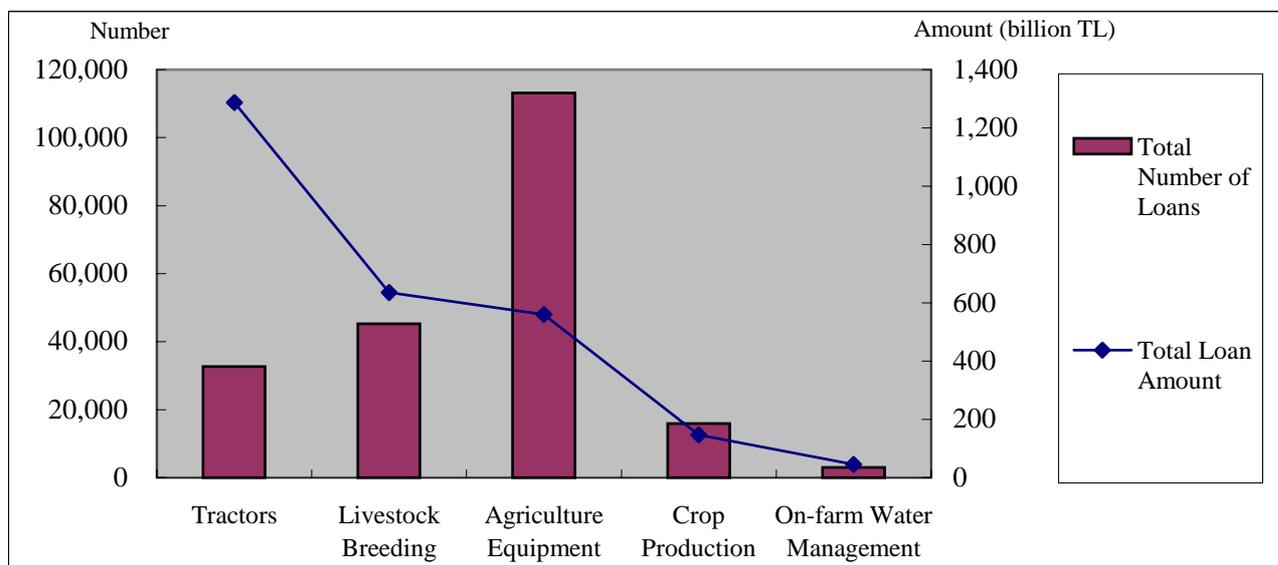
表 2 TCZB、世銀、及び JBIC を資金源とするサブローンの現況(1989 -1994)

	Farmers (direct investment)	TKK
農業投資の融資数	93,500	114,000
短期融資の数 (TCZB 及び世銀のみ)	1.5 million	560,000
サブプロジェクトの平均額	US\$ 7,814	US\$1,780
サブローンの平均額	US\$ 4,300	US\$ 938

出所: TCZB

エンドユーザの半数は農業機械の購入にローンを用い、20%は家畜の飼養にローンを用いた。全融資額の 50%以上は、トラクターの購入に用いられた。プロジェクトの開始から 1994 年 12 月までの農業投資ローンの投資対象別の数と金額を図 1 に示す。中・長期ローンの返済期間は、穀物生産の場合は 7 年で、家畜及び機械化の場合は 5 年となっていた。

図 1 投資対象品目別農業投資ローンの数と金額 (1989-1994)



出所: TCZB

2.2.2 金利

1989 年 5 月には、世銀、TCZB 及びトルコ政府との間で、サブローンの金利の加重平均が 1990 年 3 月までに実質レートでプラスになるよう、合意がなされており、政府がマクロ経済バランスを達成してインフレを抑制するための努力をすることがプロジェクトの実施の前提条件となっていた。1990 年前半にはよい方向に進んでいたものの、1990 年後半には湾岸戦争の影響で経済状況は悪化し、インフレーションは高い水準で推移することとなった。政府は、農民がインフレによって打撃を受けているタイミングに金利を引き上げることは不可能であるとし、農業の支援の政策についても根本的な変更を行わなかった。一方において、世銀はトルコ政府の農業支援政策は持続可能でなく、またインフレが金利を上回っている状況では金利は所得分配の役割を果たさない、という立場をとっており、その結果、貸付の一部はキャンセルされた（70 百万 US ドルは貸付されなかった）。

世銀はローンを途中でキャンセルしたが、JBIC は以下の理由によりローンを継続した。

- 1) プロジェクトの目的は、サブローンのスキームを通して、農業信用へのアクセスを拡大して農家レベルにおいて農業生産性及び農民の収入を向上させることであり、本案件はこの目的達成に貢献していた。
- 2) 政府開発援助における円借款は、日本とトルコ間の二国間援助であり、世銀といった多国間援助とは異なっている。
- 3) 低所得の農民へのインパクトを確保するという観点により、単に借款を中断するよりも、金利のあるべきレベルについてトルコ政府と政策対話を継続することのほうがより重要であった。

表 3 に、サブローンに適用された金利の加重平均及びインフレ率の加重平均の比較を示す。

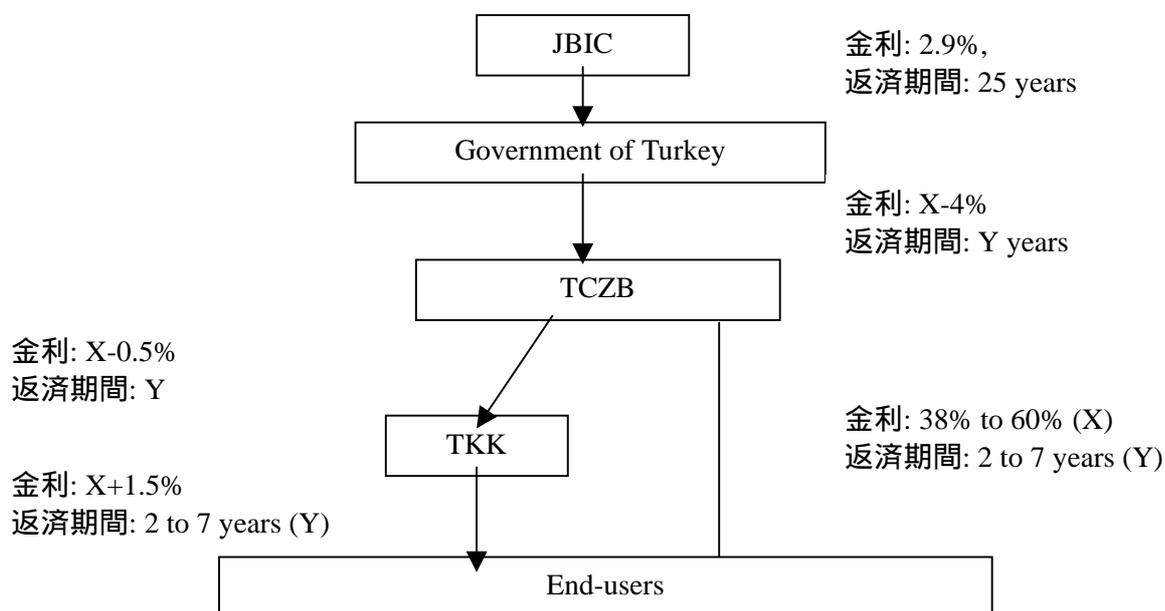
表 3 金利及びインフレ率

	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
サブローンの金利の加重平均	41.6	41.5	41.1	40.6	39.9	39.6	38.7	46.3	65.4	60.2	59.6	45.6
インフレ率の加重平均 (ポジティブレートの参考値)	62.3	48.6	59.2	61.4	60.3	149.6	65.6	84.9	91.0	54.3	62.9	32.7

出所: TCZB

図 2 に、JBIC、トルコ政府、TCZB、TKK 及びエンドユーザの間の、それぞれの金利と返済期間を示す。

図 2 ツーステップローンの貸し出しスキーム



2.3 効果 (目的達成度)

本案件の目的は、農民の所得向上であった。JBIC との融資契約に基づき、TCZB は 1991 年に JBIC の職員の立会いのもとで「融資効果調査」を行い、10 県で合計 100 人の農民に対してインタビュー調査を行った。しかしながら、同調査においては、農民の所得をサブローン実施前と後で比較するためのデータをとっていなかったため、融資の効果は把握できてい

なかった。そこで、本事後評価において、Afyon, Bursa, Edirne, Tokat and Eskisehir の 5 県の合計 23 名の農民に対して、再度インタビュー調査が行われた。今次インタビュー調査のサンプル数は限られていたが、これは、一次ローンの口座が既に閉められてしまっている一方、二次ローンについては TCZB 独自のローンの利用者と JBIC のローンの利用者を分けることが難しかったため、1991 年の融資効果調査においてインタビューされた農民の中から回答者を選び、融資の長期的効果を測定することとなったためである。平均のプロジェクトコスト及び収入増加を表 4 に示す。

表 4 投資による収入の増加

投資の対象	プロジェクトの数**	1991 年時点における平均プロジェクト費用	収入の増加の平均 (1991 年の価格)
トラクター	7	49.0 million TL*	11.3 million TL
家畜飼養	14	35.3 million TL	47.1 million TL

出所: JBIC Interview Survey July 2001

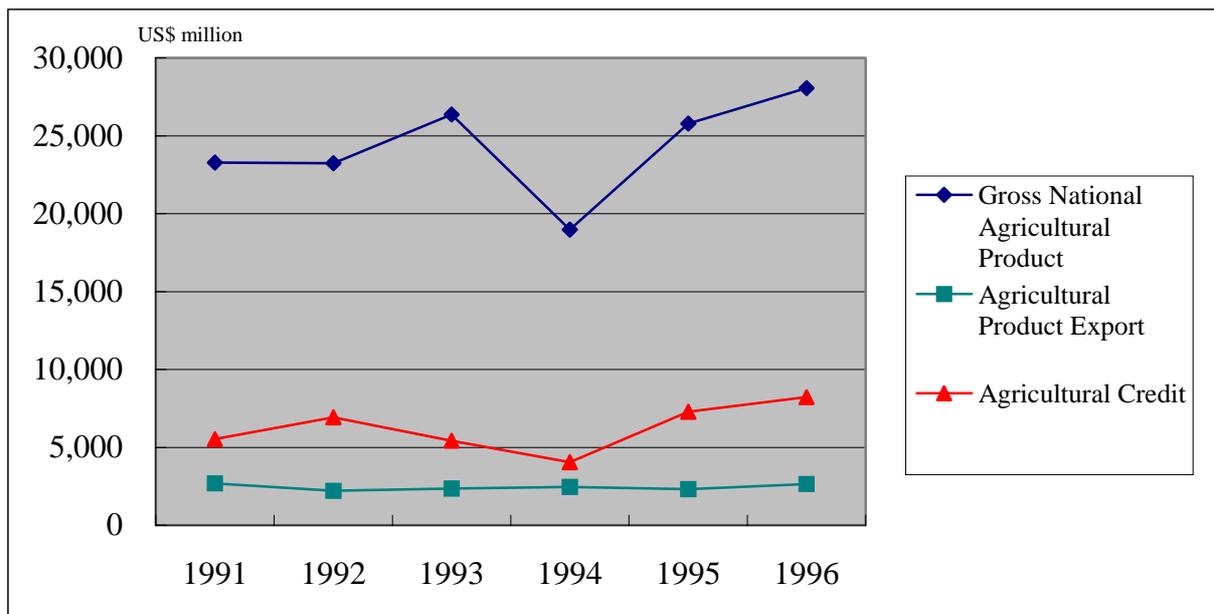
*トルコリラ

**牛を購入直後に盗まれた農民及び、ローンの目的外利用によりキャンセルされた農民の、2 つのプロジェクトが除外されている。

トラクターにローンを用いた農民は、生産量が 20~25% 増加したことがインタビュー調査により確認された。(ローン以前に借地にて農業を行っておりローン後に土地を購入した 1 件の農民を除いて) これらの農民は農地を増加させることはできなかったため、生産量の増加は、農地での生産性の増加によって達成されたものである。ローンを利用して家畜飼養を開始ないしは拡大した農民については全て、収入が実質的に増加した。その結果、トラクターの場合は 5~6 年、家畜飼養の場合は 2~4 年で投資を回収できることとなった。しかしながら、表 3 に示したように、金利はインフレ率よりもずっと低く設定されていたため、これらの投資は実質的に補助金を受けていた状態にあり、それによってサブローンの収益性が引き上げられていたことも事実である。

TCZB は、トルコにおける農業信用の 90% 以上を占めている。1991 年から 1996 年の間に、TCZB の農業信用の残高は 5.5 百万 US ドルから 8.2 百万 US ドルへと増加している。同時期にトルコの農業生産額が 23 百万 US ドルから 28 百万 US ドルへと増加していることから、TCZB の農業信用は、トルコの農業生産の増加において重要な役割を果たしていると言える。

図 3 トルコにおける農業生産額と TCZB による農業信用



出所: 農村農業省及び TCZB

* 1994 年の生産額及び農業信用の減少は、TL がドル価に対して高すぎたことによる。

2.4 インパクト

2.4.1 雇用の創出

トルコにおいて農業セクターに従事している人口は減少しているが、プロジェクトは雇用の増加に貢献している。2001 年 7 月に行われた JBIC によるインタビュー調査の対象となった 23 の農家において、労働者数が過去 10 年間で 90 から 117 人へと、20% の増加を見せている。雇用の増加は、主として家畜飼養を開始した農家に見られており、投資が労働集約的活動へ向けられることにより、プロジェクトが雇用の創出につながったと言える。

2.4.2 環境面及び社会面のインパクト

プロジェクトの審査時には、環境面や社会面におけるマイナスのインパクトは予測されておらず、TCZB の報告によれば、実際に環境面及び社会面にマイナスのインパクトはなかった、ということである。

2.5 持続性・自立発展性

2.5.1 サブプロジェクト

2.3 項において述べられたように、今回の PEDAC 調査のインタビューの対象となった 23 のサブプロジェクトのうち、21 については融資後も事業を継続した。これらの 21 のサブプロジェクトのうち、3 件の農家については、現金の必要性から家畜の全部ないしは一部を売却し、その後耕作へと事業を転換させている。残りの農民については、現在まで事業を続けており、全体として、サブプロジェクトの持続可能性は高いといえる。

2.5.2 実施機関の持続可能性

TCZB の組織能力は、世界銀行の第三次農業信用プロジェクトを通じて強化された。

TCZB の審査手続は改善され、四つの農業信用部における職員の質が向上した。経営情報システムの改善により、支店におけるコンピュータ化が進められた。TCZB の人材のデータシステムは、コンピュータによって管理されるようになった。

表 5 に、TCZB の財務データを示す。

表 5 1998 年及び 1999 年における TCZB's 1998 年及び 1999 年の財務データ (百万 US ドル)

財務諸表	1998	1999
資産合計	36,141	40,987
流動資産	3,047	3,283
預金額	15,146	17,746
資本金及び剰余金	714	612
収入	1,337	1,935
費用	1,240	1,723
税引き後純益	67	74
融資	1998	1999
粗融資額	5,768	5,728
延滞額	292	325
延滞額/粗融資額	5.1%	5.7%
貸し倒れ引当金	27	65
財務指標	1998	1999
費用 / 収入	93.7%	89.0%
総資本収益率	0.2%	0.2%
融資額 / 預金額	36.2%	30.4%
自己資本比率	2.0%	1.5%

出所: TCZB Annual Reports

TCZB の延滞ローン率は低く、純益を計上しているが、財務上の流動性は非常に低い。TCZB と政府との間で、TCZB の預金の利率と貸出の利率の間の逆鞘を「義務上の損失」として政府がカバーする旨の合意がなされているものの、実際の支払はなされていないことから、2000 年 12 月時点において TCZB の資産には 80 億 US ドルの「義務上の損失」が計上されており、これが TCZB の流動性を制約していた。2001 年 3 月の IMF に向けて出された Letter of Intent には、TCZB は将来の収益性を確保するために財務上・運営上のリストラクチャリングを行う旨表明されており、TCZB の理事会は同行の民営化についてのスケジュールを既に立てている。この財務上のリストラクチャリングには、「義務上の損失」を精算することが含まれており、そのために、譲渡可能な政府公債を市場価格で発行することによって、TCZB が十分な流動性を確保できて預金の引き出しに応じることができる、とされている。

リストラクチャリングのプロセスにおいて、TCZB は運営費用を引き下げる努力を継続している。TCZB は政府への依存を低めるために、既に農業ローンに市場金利を導入しており、2001 年の 6 月には TCZB の短期ローンの金利は 118% にまで、長期ローンの金利は 125% にまで引き上げられた。JBIC の評価調査においてインタビューを受けた農民のほとんどは、金利の高い TCZB のローンを借りることはできない、と言っており、TCZB が効率的に商業ベースで運営される農業信用銀行となれるまでには、しばらく時間が必要であると考えられる。

2.5.3 ツーステップローンの持続可能性

サブローンの返済率は良くも悪くもないレベルである。返済についてのデータは 1994

年から 1996 年についてのみ得られ、内容は表 6 に示すとおりである。この期間、延滞債権数の率は 15～25% であり、延滞債権額の率は 8～10% となっている。期限後 1 年以内に回収できなかったものに対しては法的措置がとられ、担保が行使される可能性があるとされている。法的措置がとられた中・長期ローンのうち、回収できた金額は全体の 52% である。

表 6 サブローンの回収 (年末時)

	1994	1995	1996
サブローンの数 (a)	856,023	833,105	867,879
債務不履行のサブローンの数 (b)	216,638	132,263	130,913
サブローンの数による延滞率 (b)/(a)	25%	16%	15%
合計残高 (billion TL) (c)	18,952	52,679	123,752
延滞額 (billion TL) (d)	1,950	2,711	10,387
サブローンの額による延滞率 (d)/(c)	10%	5%	8%

出所: TCZB

2.5.3 特別勘定口座 (リボルビングファンド)

一次ローン及びリボルビングファンドは、特別勘定口座によって管理されてきており、その状況は表 7 のとおりである。リボルビングファンドに蓄積された基金は、すべてサブローンに用いられている。

表 7 特別勘定口座及びリボルビングファンド (十億 TL)

	1989 -1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
期首残高 (a)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
JBIC からの貸付額 (b)	274	131	287	520	740	1,501	443	10	0	0	0
元本返済額 (c)	44	57	170	307	480	731	1,011	1,121	904	770	636
合計入金額 (d)=(b)+(c)	318	187	456	827	1,220	2,232	1,454	1,131	904	770	636
サブローンの貸付額 (e)	318	187	456	827	1,141	1,938	1,071	738	510	376	242
JBIC への返済額 (f)	0	0	0	0	79	294	383	394	394	394	394
合計出金額 (g)=(e)+(f)	318	187	456	827	1,220	2,232	1,454	1,131	904	770	636
期末残高 (h)=(a)+(d)-(g)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

出所: TCZB

3. 提言

TCZB のリストラクチャリングないしは民営化の動向を今後も継続的に注視していく必要がある。

主要計画 / 実績比較

項 目	計 画	実 績
(1) 事業範囲	農業機械、家畜飼養及び花卉生産のための中・長期農業信用の供与	農業機械、家畜飼養及び花卉生産のための中・長期農業信用の供与
(2) 工期	1989年12月～1993年12月	1989年12月～1997年1月
(3) 事業費 外貨 内貨 合計 うち円借款分 為替レート	564.1 百万 US ドル 643.5 百万 US ドル 1,207.6 百万 US ドル 35,200 百万円 US\$ 1 = 140.80円 (1998年10月)	571.2 百万 US ドル 522.0 百万 US ドル 1,093.2 百万 US ドル 35,200 百万円 US\$ 1 = 127.90円 (1989年から1997年までの加重平均)